

友野和子

かわせみ通信

No. 6

2022.4



昨年は身近な方々の選挙に関わり、東京都や多摩とのつながり、国全体の舵取りも感じる年となりました。3月議会ではロシアのウクライナ侵攻に対し、会派一致で抗議文を国に提出しました。抗議や経済制裁を受けても破壊や殺害が続いています。権威主義国家ロシアの指導者は情報操作やテレビや体制で国民を統制し、北朝鮮や中国も連動して動きます。また、市長・市議補欠選挙では、清瀬の事を考える若いパワーに出会いました。今年から投票は18歳からとなりましたが、若い世代の投票率は上がったのでしょうか？自分の住む地域や国やその仕組み。国内外の政治にきちんと関心を持って考え、支え合いながら自分の役割を果たすことが国の平和や世界の平和につながります。学生時代に学んだ「人間は考える葦である」というパスカルの言葉の意味を考える毎日です。



福祉保健常任委員会の報告

ワクチン接種のエッセンシャルワーカーや市民全体への接種券の前倒しをお願いしてきましたが、他の自治体に先駆けて接種券や集団接種を進めて頂き、スマートな対応をしていただけたと考えております。また学校におけるオンライン学習なども早めの対応で学級閉鎖を免れるなど、コロナへの対策や対応は段々身につけてきたのではないかと考えます。あとは治療薬の開発が進めば普通のインフルエンザとなっていくのでしょうか。

今年は国民保険料（市）や後期高齢者保険料（都）の見直しがあり、基盤安定への積み上げも上がってきております。来年以降もコロナで費やしてきた医療に対して一般会計からの繰り入れが増えることを予測し、歳入における市の減債の取り崩しの危機管理をしなければならないと意見を述べさせていただきました。

多摩六都科学館議会の報告

令和4年度多摩六都科学館組合の負担金ですが、清瀬市の負担額は0.3%減の5366万6千円となります。利用率は62.7%増となり昨年よりは増えておりますが、コロナ前の状況には戻ってはいません。

新型コロナウイルス感染症の影響が長期化しているため、3月はオンライン形式による「こども科学ZOOM相談」や「オンライン天体望遠会（大人も対象）」などを企画し利用促進を試み、令和4年度はオンライン授業にむけてのコンテンツを整えるとの事です。是非、自然・科学・化学などの子ども達の関心を深める機会を使い、是非大人の方も一緒に学んでいただければと思っております。



渋谷けいし市長と子ども家庭庁の世話人の自見はなこ議員



27年間市政を守り導いて下さった渋谷金太郎故市長

私の一般質問

9月
議会について
(抜粋)

コロナ禍による市民への影響について。

子どもの虐待や自殺の増加、女性の抱える状況、急な対応に迫られた方の生活支援についての一般質問をしました。清瀬市では、児童福祉において財政が少ないため多くの国や東京都の補助を利用し、先進的な取り組みを多岐に渡り進めてきたようです。市の活動をピッコロやウィズアイといった民間の子育て団体が支えております。昨年は子ども政策推進の自民党の勉強会に参加（ZOOM）し、清瀬市は人材に恵まれていることに気が付き、市の実態も含めて意見を伝えました。来年4月の子ども家庭庁立ち上げにむけて、子ども達の状況を把握し連携するネットワークの導入や地域全体で子ども達を育む環境（含家庭）づくりの整備が始まっております。清瀬市では顔の見える関係で、社協・きよせ生活相談支援センターいっぽ・ハローワークで急な対応を迫られた方に対応してきております。また、女性の自立を育ててゆく場の確保の強化・連携などの支援。コミュニティーハウスなどを利用した子ども達の遊びの場の確保を要望しました。ただし市のボランティア活動を支える世代は80代が多く、今後の継続が課題です。是非、人生における生きがいの選択肢としてご参加いただければと思います。

清瀬市では昨年8月に、在宅勤務が始まり家庭で確保できない時間や空間を一日300円で利用できる coworking space「ことりば」が駅近くのアミュー5Fにオープン！また4Fの「アイレック」では、女性の一般・DV・法律・仕事相談（042-495-7002）を受けております。悩みは一人で抱えずに、是非ご利用下さい。



12月
議会について
(抜粋)

持続可能な社会保障制度について。

国民の老後を支える国民健康保険の保険料を考えるにあたって、働く世代や高齢者への負担を考えると高額な医療に関する制度の公平性をつけることが必要であるということが質問で見えてきました。日本の医療保険制度は国民皆保険の性質から海外からの移住者・労働者への対応や管理の在り方は国の今後の課題です。複雑な社会保障制度についての学びは、今年の4月から高校や大学で始まるとの事でした。

生活自立支援では家計の管理から始め、仕事を探し自立して行くそうですが、生活設計を立て経済的な自立を促す教育（人生設計）は、不確かな時代において大切です。個人においても、健康に気を付けたり、人と出会い会話をしたり、仕事をしたり、学び続けることは大切なことです。「地域で循環する経済の仕組みをつくること」が課題と模索しております。

3月
議会について
(抜粋)

成人年齢の引き下げについて。

一番気を付けなければならないのが携帯のクレジット取引による特殊詐欺ではないかと考えます。二十歳までは契約として成り立たなかったものが成立し、親の債務責任は残るので裁判でお金がかかる事態となります。財産管理も含めた教育を18歳までに子ども達にしてゆく必要があります。コロナ禍になり携帯でのショッピングなどの若年層の被害も増えているので、気を付けていただければと思います。また「成人式」という名称が「清瀬市20歳のつどい」に変わっても「きちんと社会や政治や世界に関心を持ち考える子ども達を育てる」といった教育の目標を持ち、儀式の役割は持ってほしいと要望しました。



清瀬駅南口複合施設について。

1月に基本計画についての説明会が開かれ、施設の計画（清瀬駅南口地域児童館・中央図書館等複合施設及び中央公園整備基本計画の内容）の内容が明らかになってきました。説明会を聞いて具体的な提案・要望をさせて頂きました。この施設が住民の方の参加によってどんな施設になっていくのか？清瀬の教育（学校・生涯）の柱となり、情報発信の場となっていき、商店街（南口・野塩）の発展にも寄与することを心より願っております。